



平成23年7月26日

第17号

宮城教育大学ESD・RCE推進会議から、学内外のESD・RCEの取り組みやニュースをお知らせします。

I. これまでのESD 関連事業報告

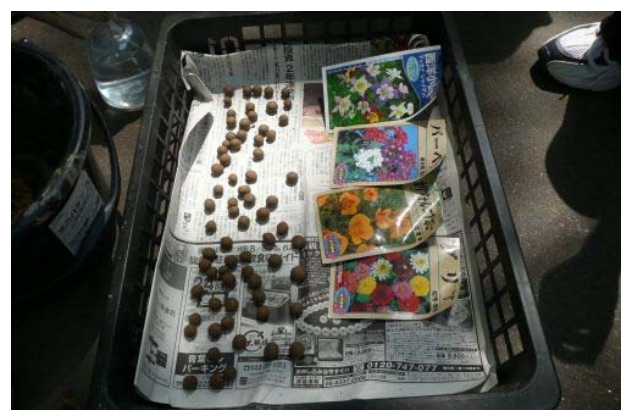
1. いぐねの学校復旧ワークショップ -いぐねの田んぼ Before & After- (6月5日・日)

名取市大曲洞口家住宅並びに周辺水田において、被害地実態調査と田んぼの瓦礫撤去作業を行う標記ワークショップを実施した。当日34名の教職員やボランティア学生に交じり、渡辺一雄・前玉川大学教授も参加した。被害地実態調査では、名取の海岸沿いまで行くことができ、日和山から土台を残すだけの、名取市内が見渡せた。洞口家住宅周辺水田の瓦礫撤去では、貴重な年金手帳、アルバム、お年玉が入った子ども用バックが見つかり、海水を含んだ重い畳、鯉、プラスチックや木材などを撤去した。洞口家の周辺水田が、津波が押し寄せた最終地点にあたり、瓦礫が大量に残された。今後も瓦礫撤去や除塩植物の種子散布を実施する予定である。



2. グリーンウェイブ活動・バケツ稲 (6月6日・月)・いのちの粘土団子 (6月10日・金)

予定した5月30日が大雨だったため、6月6日に授業の一環であるバケツに稲を植える活動を実施した。本年は、バケツを新しくしての稲植えだった。また、幼児教育の授業の一環で、今年は、各種花の種を入れた「いのちの粘土団子」をつくり、一週間後に学内へ植樹した。



3. 気仙沼地域との幼稚園交流&国際交流（6月7日・火）

気仙沼の大谷幼稚園から要請があり、大谷幼稚園移動先の大谷小学校にて、佐藤雅子名誉教授が「わらべうた」遊びを実施した。本学から、市瀬教授、教員留学生3人（インド・ガーナ・モンゴル）、目々澤が参加した。また、ユネスコスクール加盟校・鳳鳴乃里幼稚舎（佐賀県）より江島先生が、黄色いハンカチの贈呈に訪れた。午後には、気仙沼市立鹿折小学校にて、国際交流活動の打ち合わせと、「東日本大震災」被災校に対するドイツからのメッセージと、タイ日本人学校から、本学に送られてきた千羽鶴の贈呈を行った。



4. オーストラリア大使館職員来訪（6月15日・水）

オーストラリア大使館職員の教育担当参事官カレン・サンダコック氏、留学プロモーション業務担当・商務部ジョージ・マネタキス氏が来訪した。4月の豪州首相来日時に発表された、日本への教育支援プログラムや、本学とオーストラリアのセントラル・クィーンズランド大学との連携プログラム（①宮城県内の小学校教員のオーストラリアにおける夏季の体験的実習、②オーストラリアの教育実習生の、宮城県内の小中学校における4カ月の体験的実習。③本学学部学生の、教育的体験を含む春季研修）などの情報交換を行った。



5. 第2回未来づくりESDセミナー（6月25日・土）



ESD-Jと仙台広域圏ESD・RCE運営委員会共催、宮城教育大学後援で標記セミナー“震災からの再生×生物多様性×ESD”を本学にて開催、全国から約150名が参加した。NPO 森は海の恋人・畠山信副理事長、くりこま高原自然学校・佐々木豊志校長、気仙沼市教育委員会・伊東毅浩課長補佐、南三陸町伊里前契約会千葉正海会長、南三陸町伊里前小学校・阿部正人教諭が報告と問題提起を行った。その後、会場全員が質問と提案を出し合うワークショップを实践した。よく26日(日)は、ESD-J全国ミーティング2011の分科会に向けた問題提起、分科会、総括と今後に向けて討論を行った。

6. RCE 事業化ワークショップ (6月26日・日)

本学において、国内 RCE 主催の標記ワークショップを開催、国連大学高等研究所、「ESD の 10 年・世界の祭典」推進フォーラム事務局、仙台広域圏を含む国内 RCE5 地域から 15 名が参加した。震災に対する取り組みと「持続可能な社会」へ RCE の果たす役割について、午前中に仙台広域圏より現状報告と、各 RCE の震災への取り組みの発表があった。午後は、復興支援において RCE として何が出来るか、地球市民会議や 2014 年の DESD 最終年会議へ向けての RCE の動向などディスカッションを行い、参加者の一部は東日本大震災へのボランティア活動を実践した。また、翌日 (27 日・月) は、北九州 RCE のメンバーによる、仙台広域圏 ESD や本学の取り組みの聞き取り調査も行われた。



7. 東日本大震災被災地視察 (6月27日・月)

「ESD-J 全国ミーティング 2011」の翌日、ESD-J および国連大学 RCE のメンバー 20 余名と本学教員島野・川崎准教授が、南三陸町と気仙沼市の視察に行ってきました。南三陸町では伊里前小学校を訪問し、菅野教頭先生に学内をご案内いただいた後で、兵藤校長先生に震災以後の学校や生徒達の様子などについてご説明いただきました。(伊里前小学校校舎には、被災した名足小学校も同居、グラウンドの仮設住宅に暮らしている被災者の方々も) その後、気仙沼市唐桑町にある NPO「森は海の恋人」の事務局を訪問し、NPO 副理事長の畠山信氏に、震災後の様子や NPO の今後の活動方針などについてレクチャーを受けました。昼食後、国連大学 RCE メンバーと島野准教授は気仙沼教育委員会を訪問し、現況や課題などをうかがいました。南三陸町と気仙沼市では、道路の復旧は進んでいるものの、被害の大きかった地域では大きな瓦礫や船、自動車などが撤去されないまま残されており、震災後のまちづくりの展望は、まだまだ描けない状況にあるようでした。写真は 27 日現在の、気仙沼市海岸部の様子です。本学では今後も被災地域の学校・教育委員会などに、息の長いサポートを続けていきたいと考えています。



8. 環境省環境教育推進室関係者来訪（7月7日・木）

環境省関係者が、国連大学がESD推進地域の拠点（RCE）に認定した、仙台広域圏RCE事務局の宮城教育大学を訪問した。本学からは見上総務担当理事、吉田財務担当理事、仙台広域圏ESD・RCE運営委員会・小金澤委員長、齋藤千映美教授が対応し、教育復興支援センターの取り組み、ESD関連授業等の情報交換を行った。今後、2014年に日本で開催予定の『ESDの10年最終年會合』などにおいて、ESD復興モデルを世界に発信していくことを検討していくこととなった。



9. ボランティア活動



6月17-19日にわたって、「自然フィールドワーク実験」履修者のうち島野班のなかの希望者5名は、ボランティアチーム（RQ市民災害救援センター・歌津ボランティアセンター）に混じって、一般のボランティアとともに、避難所となっている歌津中学校のみぞ清掃、瓦礫撤去（衣類・生活用品などの軽い物で、ボランティアにしかできないもののみ）、被災した写真の清掃をおこなった。2泊は、いずれも歌津ボランティアセンターのテントでの生活であった。一枚一枚、被災した写真を洗う作業を、丁寧に行った。自らが「ボランティアに参加することで、人を助けると言うよりは、自分自身がそこから学んだことが大きい」という感想をよせてくれた。担当：島野智之（環境教育実践研究センター）

II. 今後の予定

※8月5日（金）～7日（日）

日本ユネスコパートナーシップ事業・お米プロジェクト・リーダー研修会
（会場：東北大学・川渡フィールドセンター）

※11月12日（土） 第3回ユネスコスクール全国大会（東京開催）

※11月13日（日） お米プロジェクト・サイドイベント（東京開催）

※12月 アジア太平洋フラグシップ・プロジェクト「RICE」学校間交流
（宮城教育大学 予定）